



まごころドーナッツより

Vol.20
2024年3月発行

・はたらく大人と出会う会 ～中野区立中野東図書館 館長～

ここ何回かの『まごころドーナッツより』では、新たなプログラムの登場やイベントのお知らせが続き「はたらく大人と出会う会」の記事は久々の登場になります。今回は、ゲストの平田館長に執筆を依頼したところ、快く引き受けてくださいました。

以下に、本文を掲載いたします。

『はたらく大人と出会う会を終えて 中野東図書館 平田 陽一』

以前よりとても懇意にさせていただいているまごころドーナッツさん。図書館を使ったプログラムを毎月実施していただいております。「はたらく大人と出会う会」については以前から知っており「私も身近なはたらく大人だし、そのうち声がかかるかな……」と思いながら待つこと数か月……待ちきれず結局私から「そろそろ出させてください!」とお伝えし今回のプログラムが実現しました。

プログラム中、自分語りに夢中になって若者たちを置き去りにしたくなかったので「遠慮なく話の腰を折ってください」とお伝えしたところ、適宜質問が飛び出すなどインタラクティブな会となりました(狙い通り)。自分の経歴や図書館での業務についてなど、内容的にはオーソドックスなものでしたが、以前勤めた図書館でのこぼれ話や失敗談など楽しんでもらえたようで良かったです。

どういふことを話そうかなと考えているときや、プログラムでお話をさせていただいているときも、過去の自分を思い出しながら、同時に今の自分の視点から客観的にこれまでの人生を俯瞰することができ、普段過ぎたことはあまり振り返らない私にとってとても良い機会になりました。お話をさせていただいた内容が参加した若者たちの生きるヒントになったのなら嬉しく思います。図書館共々今後ともよろしくおねがいします。



・テーマトーク ～一人暮らし～

まごころドーナッツでは、メンバーと一緒に活動をつくっていくことを大切にしています。

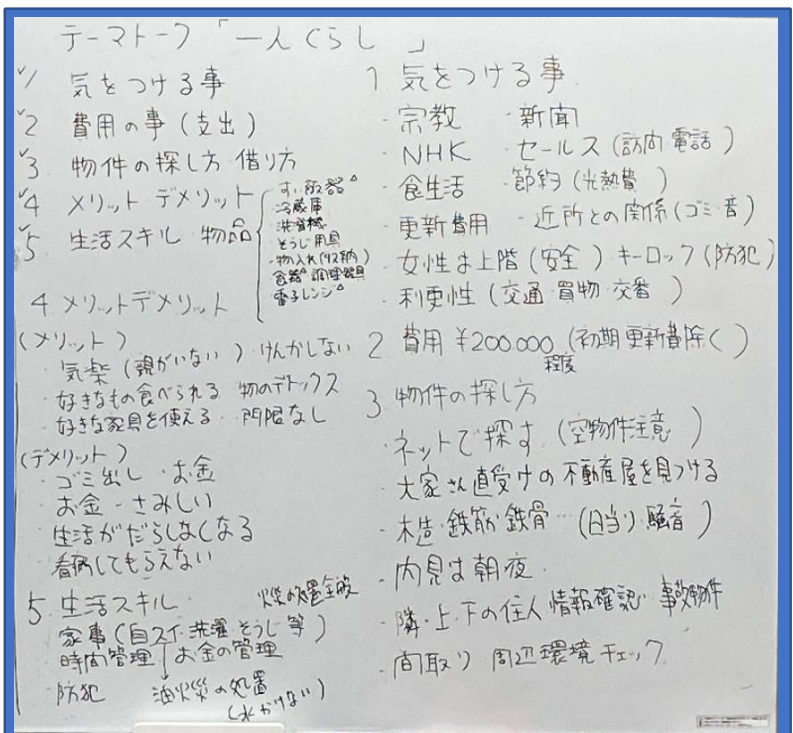
メンバーから出た案をミーティングで検討して、プログラム化したり、プログラム化に至らない場合でも、日々のフリースペースで取り入れるなどの工夫をしています。テーマトークの題材決めもその一つです。

2月のテーマトークでは、既に行っている人もいずれしようと思っている人も関心のある「一人暮らし」が題材に選ばれました。

1人暮らしをする際に、以下の知りたいテーマが5つ上がりました。①気をつけること ②費用のこと(支出) ③物件の探し方・借り方 ④メリット・デメリット ⑤生活スキル・物品 です。

メンバーからは、実際生活するにあたっての具体的な情報を知りたい様子が伝わってきました。一人暮らし経験者のメンバーからも、実際の体験から得たエピソードや知恵を披露してもらえました。

(スタッフ 荒井りつ子)



・まごころキッチン ～たこ焼きをつくろう！～

メンバーたちに人気のプログラム「まごころキッチン」は、月に1回のペースで定番化してきました！

2月のまごころキッチンは、昨年の10月に『まごころ祭』のドーナツ製作で大活躍した「たこ焼き器」で、本来の使い方であるの念願の「たこ焼き」をつくることができました！

「たこ焼き粉」総重量1kgを使い切り、タコの他にミックスシーフード、ウィンナーやチーズを入れたアレンジ焼きなどで、お腹一杯になるまでたこ焼きパーティーを楽しめました。以下に参加したメンバーの感想を紹介いたします。



○たくさんたこ焼きを焼けて良かったです。意外とみんなで完食できて、残らなくて安心しました。最初は食べきれないと思ったので。

デザートは、次の機会に作るので楽しみです。

○おいしかったです。みんなとたこ焼き作り楽しかったです。

○焼き方や切り方を教えてもらいながら、自分で作って食べてとても楽しかった。

○タコだけではなく、エビの具もおいしかったです。次は揚げたこ焼きもしたいです。



・《メンバーのルポ風連載『北新宿の駄菓子屋』》

先々月から始まった《メンバーのルポ風連載『北新宿の駄菓子屋』》も、今月がいよいよ最終回です。

連載(1)(2)をお読みにになりたい方は、お手数ですが紙面末尾にありますQRコードから、まごころドーナツのHPにてご覧下さい。

(3)北新宿の駄菓子屋 ～おばあさんの話～

話を聞くと、おばあさんは90代、大東亜戦争中に葛飾区の亀有で洋食店で働いていたらしく、戦時中に亀有一帯が火の海になり逃げて来た所が北新宿の現在に至るところだった。その後パン屋を始め、正面には鉄工所があり鉄を打つ音や職人達で賑わっていた町だった。時代が進みパン屋を辞め、駄菓子屋に何故か、なっていたらしく本人でも謎らしい。その商店街には銭湯や八百屋さんなど多々あり肉屋さん以外が全て揃っていた。また歌舞伎町にお仕事で行く為に派手でフリルな衣装を纏った化粧の濃い若い女性達が泊まっていた町だったらしく、笑いながら喋っていた。しかしその表情の奥には何かを抱える悲しさがあつた。時代が進むと鉄工所が無くなり今の駐車場へと姿を変えた。商店街にいた歌舞伎町に通う女性達の姿が消え、寂れたシャッター街になっていた。

話を聞き終えた siro はうなずきながら「商店街だった面影が消え取り残されていて悲しいですね…」と言った。すると、おばあさんは更に言った。「今じゃ外国人の方が多くてね、一銭にもならないゴミを売っている…」それを聞いた siro は複雑な心境だった。

その後 siro は駄菓子屋を出て、目の前が鉄工所、何でも揃う商店街だった事を思い出し、駄菓子屋のようにカラフルな商店街だった事を想像してしてまった。

～あとがき～

筆者の siro です。今回は実在する駄菓子屋のおばあさんの話を元に書かせて頂きました。正に時は残酷な物語であり、なんとも言えない気持ちになった駄菓子屋のおばあさんのお話でした。 <終わり>

この後メンバーらは、駄菓子屋を囲んでフリースペースで談笑しました。

その時の会話がきっかけで、通信の記事を依頼したところ、大作を仕上げてくれた siro さんでした。

中野区若者フリースペース まごころドーナツ

【所在地】 〒164-0011 東京都中野区中央 1-41-2
中野区子ども・若者支援センター（愛称：みらいステップなかの）4階
東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線「中野坂上」駅A1出口から徒歩2分

【電話】 03-5937-3664

【開所時間】 火曜日から土曜日（祝日、年末年始を除く）11:30～19:00
※毎月2回、不定期で閉所日があります。

プログラムスケジュールや最新情報は、HPにてお知らせしていきます。➡

